

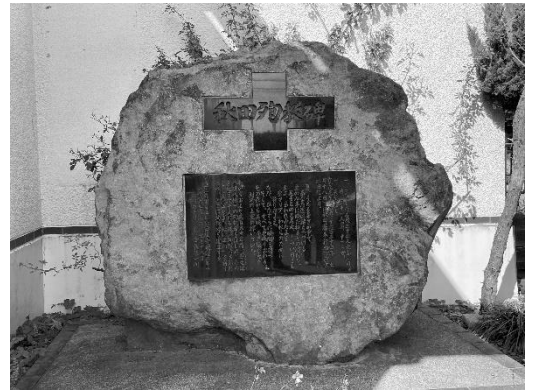
巡礼と祈りの旅 秋田の聖母

朝比奈 潔

今回は、長崎巡礼記から外れてしまいますが、共通項は「巡礼と祈りの旅」と言うことで「風」の編集者のお誘いもあり、話は南の長崎から北の秋田に飛びます。実際に 2023 年 10 月 2 日伊丹空港から生まれて初めてプロペラ機に乗って飛びました。この巡礼にひかれたのは、「聖母と知られざる殉教の歴史」というキャッチフレーズ。参加は巡礼リーダーの淳心会アンリ神父様を含め 7 人、姫路からは私のみでした。秋田の聖母は有名で既に巡礼された方もおられるでしょうし、又関連情報も多いので何を今更とお思いのこととは思いますがお許しを。誰もご存じない最新ニュースは一つだけ。其れはこの編の最後にとっておきましょう。

さて長崎の殉教者とその殉教地は多くの人びとに知られ、今も尚尊い場所として記念されています。しかし秋田にも多くの殉教者がいたということ、私は今回初めて知りました。その殉教地は草生津（くそうづ）刑場といわれ久保田藩が江戸時代に設置したもので、記録に残る 33 人以外にも多くのキリシタンの殉教地であると同時に藩の重罪人の刑場でもありました。これが長崎の殉教地とは大きく異なる点です。この刑場跡地は 1879 年（明治 12 年）に畜産組合の所有となり、大正天皇の皇太子時代の行啓に際してはそれを記念する運動場となり、更に油が出ることから石油会社が鉱場とし、その後 1998 年（平成 10 年）に大きな駐車場のあるショッピングセンターに衣替えしました。

（一部ウイキペディアによる）従って、今賑わいを見せるこの場所が元の刑場跡など知る若者はいないでしょうし、ましてキリシタンが火あぶりになった殉教地などとは思いつかないでしょう。殉教の記録は 1986 年（昭和 61 年）刑場から 3.5 km 離れたカトリック秋田教会の庭に信徒一同により建立された記念碑によってやっと知ることが出来ます。（写真右）碑文には「きりしたん衆三十三人火あぶり。



内、二十一人男、十一人女。天気よし、寛永元年（西暦 1624 年 7 月 18 日（原文漢字））旧秋田藩

奉行梅津政景の日記より」と記されています。又 1624 年のイエズス会日本年表によると「その夜から三晩、不思議な光が刑場の上空に輝いていたのを近郊の住民が確かに見たという」「殉教者の数は県内各地百数十人に及ぶ」とも。（来年 2024 年が殉教 400 年にあたる秋田教会の記念誌による）

もう一つの巡礼地は秋田の聖体奉仕会修道院。静かな山腹を上った湯沢台というところにあるこの修道院には、古い神社を転用したのかと思われる立派な和風建築の大聖堂があります。（写真左）信濃の善光寺の 1/2 を模した信濃国分寺薬師堂を



ベースに 2002 年 5 月に完成したもので、安田貞治神父様肝入りのしっとりとした美しい日本建築。「カトリック が日本の精神風土に根づきますように」との願いを込めて日本の伝統的な社寺建築が用いられたとのこと。完成には 7 年を要し、2002 年 5 月 1 日に完成、「救い主の母」に捧げられました。そこに使われた古木は近くの補陀寺住職から譲り受けた樹齢 300 年といわれる大

杉です。（田端美恵子著「秋田の聖母と知られざる殉教の歴史」）

教会と言えばヨーロッパ風の堂々としたカトリックの建物や、アメリカの西部劇に出てくるような木造のとんがり屋根のプロテスタントの教会が定番で、キリスト教は日本とは教えも外見も全く異なったものというイメージがあります。それを打ち破るのが安田神父様の狙いでした。まさしくその通り、この和風聖堂をご覧になったアンリ神父様が「やっと日本の教会に会えた」と感激されたそうです。

そしてもう一つこの修道院が世界に知られているのが「涙の聖母」です。

聖堂正面の左に涙の聖母のおわすチャペルがあり、その面影を慕って世界中の人々が集まり、決して絶えることはありません。その日もアメリカから来たという若い東洋の女性が祈っていました。聖母の涙が初めて確認されたのは1975年1月4日、その日から1981年9月15日まで101回、目撃者はなんと500人にのぼるといいます。（写真右）この涙は木の樹液だとか単なる水だとか誹謗中傷もあったそうですが、採取した液体を分析した秋田大学医学部法医学の匂坂助教授により人の体液であることが証明されました。これを舐めた新潟教区の伊藤庄次郎司教様は、涙と同じ塩辛い味がしたと言っておられます。（秋田の聖母像に関する司教書簡）

この修道院の傍には、マリア庭園があり、広い庭園内には歩いてゆっくりとキリストの御受難を黙想できる「十字架の道行」があります。（写真下）



巡礼の大きな目的の一つは、ここをゆっくりと辿ることでした。所がそれを止めた方がよいとシスターが言われるのです！「前日に修道院の裏山にクマが出てこちらを見下ろしている。」シスターと目が合った瞬間（シスターがにっこり笑われたのか睨み返されたのかは不覚にも確認しませんでした）熊はゆっくりと退いていったそうです。この近くで熊が出るのは今年初めて。マリア庭園には餌になる栗の木もあるし危ないとのこと。私は若い頃、北海道の夏山を熊除けの鈴を鳴らしながらよく歩きました。そこでこんな提案をしました。この様な見晴らしの良い庭園ですから、7、8人が一緒に歩き、遠くまで聞こえる音を鳴らしていれば、熊も来ないでしょう。その為に、遠くまで澄みわたって響くミサ用の鈴をお借りしましょう。これには熊も納得したようでその日は出ませんでした。翌日から地元の新聞にはよく

熊のニュースが出るようになり、今では秋田の熊のことは全国ニュースにもなっています。

誰も知らない、取っておきの話とは、ミサの鈴を用いた「熊除けの道行」のことでした。お後がよろしいようで。